保活ワンストッププロジェクト第１回運営会議　議事要旨

日　時　　令和７年９月12日(金曜日)15時から16時30分まで
場　所　　一般財団法人GovTech東京会議室及びオンライン

出席者
【委員】
福田 厳　　東京都デジタルサービス局 プロジェクト推進担当部長
土田 文紹　　一般財団法人 GovTech 東京 デジタル戦略本部 デジタル戦略本部長
藤本 隆行　　（代理出席） 板橋区子ども家庭部保育サービス課 入園相談係長
神山 大輔　　江東区 こども未来部 保育支援課長
斉藤 宏　　八王子市 子ども家庭部 保育幼稚園課長
伊藤 賢　　私立栄町保育園 園長
鶴見 喜美子　　江東区立森下保育園 園長
田中 美香　　八王子市立みなみ野保育園 園長
栗原 正明　　こども家庭庁成育局 保育政策課長

【オブザーバー】
土岐 泰之　　一般社団法人こどもDX推進協会 理事
岡井 隼人　　内閣官房デジタル行財政改革会議事務局 参事官

【関係事業者】
デロイトトーマツコンサルティング合同会社
BABYJOB 株式会社
株式会社コドモン
ユニファ株式会社
日本ソフト開発株式会社
株式会社エクシオジャパン
株式会社両備システムズ

【事務局】
竹内 智美　　東京都デジタルサービス局デジタル戦略部こどもDX推進担当課長
木村 麻美　　東京都デジタルサービス局デジタル戦略部デジタル企画調整課 課長代理
　　以下、担当
多宇 厚　　一般財団法人 GovTech 東京 デジタル戦略本部 エキスパート
　　以下、担当

■次第１　開会・出席者紹介

竹内　こども DX 推進担当課長：

- 資料（スライド３～４）に沿って説明

■次第２　主催者挨拶

福田　プロジェクト推進担当部長：

- 主催者を代表して挨拶

■次第３　開催趣旨・事業概要説明

竹内　こども DX 推進担当課長：

- 資料（スライド６～11）に沿って説明

■次第４　運用状況の共有

木村　課長代理（事務局）：

- 資料（スライド 12～17）に沿って説明

竹内　こども DX 推進担当課長：

- 資料（スライド 18～22）に沿って説明

竹内　こども DX 推進担当課長：

- ここまでの説明について、意見交換を行いたい。各委員・オブザーバーから順番にご発言をお願いする

栗原委員（こども家庭庁成育局保育政策課長）：

- TYPES を使って実証事業にご協力いただき感謝申し上げる。２点確認したい
- オンライン申請率が 43%に留まっていたので更なる広報周知が必要との報告があった。保活ワンストップを知らない保護者だけでなく、知っていても電話を使う人もいる可能性がある。広報不足以外に、システムの使い勝手など他の要因があるか
- システム構築・運用の過程で、何かトラブルや、現場での苦労があれば教えてほしい

竹内　こども DX 推進担当課長：

- １点目について、現時点では、電話予約の理由について広報・周知不足以外の要因は把握できていない。今後実施する効果測定の中で電話予約の理由が明らかになれば、改めて報告する
- ２点目について、大きなトラブルはなかったが、使用しているプラットフォーム製品に障害が発生した場合、一時的に影響を受けた。その際に、民間保活システムと連携し、障害が発生している旨の表示を迅速に行う必要がある。システム障害の情報の迅速な共有も重要な課題として認識している

藤本　委員代理（板橋区子ども家庭部保育サービス課　入園相談係長）

- 板橋区は昨年 10 月から保活ワンストップに参加し、約 1 年が経過
- サービスは広まりつつあると感じている。「予約が取れない」といった電話もあり、利用者の関心は高まっている
- ホームページ・チラシ・SNS・区の子育て応援アプリなどで周知を実施中。さらに広報が必要と感じており、区 HP のトップページ掲載なども検討中
- 4 月入所に向けて、より多くの人に使ってもらえるよう準備を進めたい

神山　委員（江東区こども未来部　保育支援課長）

- 実際に携帯で使ってみたところ、江東区のホームページより見やすく、利便性を実感している。区でのサービス運用について、今後もアジャイルに改善を重ね、より良いサービス運用を目指したい
- ２点意見を述べさせていただく。１点目、国や東京都による広域でのプロジェクト推進に、自治体として感謝する。都心では、区をまたいだ保育施設の利用が多く見られる。各区が独自にサービスを構築すると、機能がバラバラになる可能性がある。統一的な仕組みにより、区民・都民全体の利便性向上につながると認識している
- ２点目、江東区では、7 月から導入し、利用者・施設ともに増加中。会議体や実証事業を通じて得た成果をもとにアジャイルでサービス運用の改善を進めたい。区民サービスとしては「継続性」が非常に重要。今後、国での全国展開が予定されているが、国・東京都・自治体が同じ目線で連携し、サービスを引き継いでいけることを期待している

竹内　こども DX 推進担当課長：

- ２点目の「継続性」について、来年度、サービスが都から国に移行するにあたり、この運営会議も通じて情報共有しながら取り組んでまいりたい

斉藤　委員（八王子市子ども家庭部　保育幼稚園課長）

- 本市でも7月から保活ワンストップサービスを導入した。導入当初に比べ、サービスの周知・浸透が進んできている。統計的にも利用者が増加している。保護者の活動が活発化し、問い合わせ時に本サービスを案内できるのはありがたい。市としても園見学を促しているが、実際には行けていない保護者いる。電話申請は日中の限られた時間しか対応できないが、オンライン予約は時間帯を選ばず便利
- 若い子育て世代はITリテラシーが高く、導入前より利便性が向上していると実感
- 今後はSNSや市内の主要駅の広報ラックでチラシ配布など、周知を強化していきたい

伊藤　委員（私立栄町保育園　園長）

- 現在、電話よりも保活ワンストップサービスを使った園見学申込みが増加している。10月初旬までに15家庭の申込みがあり、昨年度よりオンライン申込みが増加
- その中で、保護者から施設への「申し送り欄」に多くの項目を記入するケースが見られる。13項目すべてに記載があると、回答に時間がかかることがあるなど、対応に工夫が必要となる場合もある。申し送り事項の内容や運用について、配慮・検討をお願いしたい

竹内　こどもDX推進担当課長：

- 事務局としては、申し送り事項は、保護者の関心や見学目的を事前に施設側が把握するための便利機能として設けている
- ご報告いただいたような事例への対応について、事務局で把握できた情報があれば、連携自治体定例会において参考として共有させていただく

鶴見　委員（江東区立森下保育園　園長）

- 7月に保活ワンストップサービスを導入。当初は電話対応が多かったが8月以降は浸透し電話が減少した。各園からも好評。自園でも自動承認機能を活用し便利と感じている
- 申し送り機能により、保護者の質問内容を事前に把握できる点が有益
- 一方、システムを使うに当たって、パスワードが長く、入力ミスや時間ロスが発生
- また、施設情報が反映されるタイミングに戸惑いがあった。先ほどの説明の中で、施設情報を「ここdeサーチ」から反映できると良いという話があったが、そのようにできると良いと思う
- また、見学予約時間を柔軟に設定できるようにしてほしい（例：10:15開始など）
- 保育体験などにもシステムを活用できるとより便利になると意見もある

竹内　こども DX 推進担当課長：

- システムのセキュリティの必要性から、パスワードは文字数が多くなっており、申し訳ないがご理解いただきたい。利用者には慣れていただくようお願いしたい
- 「ここ de サーチ」との連携に関するご要望について、こども家庭庁におかれては、国でのシステム構築の際に、参考にしていただきたい

田中　委員（八王子市立みなみ野保育園　園長）

- 電話対応はまだ多いが、自動承認設定している園では、業務負担が軽減されたとの声があった
- キャンセル時に色が変わるなど、視覚的に分かりやすい表示があると便利という意見がある。また、コメントがある場合、吹き出し表示などがあると内容把握しやすくなるといった要望もあり
- 保護者からも「便利になった」との声が寄せられている

土岐　オブザーバー（一般社団法人こども DX 推進協会　理事）

- タイトな時間軸の中で、保活基盤の構築や関係者の巻き込みが進み、成果が出ていることは素晴らしいなと感じている
- 保護者と施設のマッチングが本システムの本質と捉えている
- 今後は、保護者側・施設側の課題を、どの優先順位で、どう解決するかが重要。課題解決の進め方によって、利用者・参加施設の数が増加すると考えている
- こども DX 推進協会として、施設側の課題解決に貢献できると認識。保護者からの予約に施設が気づかない課題があり、保育 ICT 事業者の連携が重要。現在 5 社が連携しているが、さらに巻き込みを加速する必要がある
- 保活ワンストップサービス未参加施設があることで、利用できない保護者もいる。サービスの網羅率を高めること、特に施設側の利用促進の部分については、保育 ICT 事業者の巻き込みも含めて支援を行いたい
- 本サービスは、良い評判が広がることで保護者間での利用が増えると思う。結果的に、データ連携のあり方の進化に繋がれば、保護者の利便性がさらに高まり、サービスの利用数も拡大していく。そのようなストーリーを描くことが重要だと思うので、協会としても、皆様の意見を参考にしながら、フェアな立場で意見を共有していきたい

竹内　こども DX 推進担当課長：

- 保護者だけでなく、保育施設側の利便性というところも非常に大切だと思う。両方を追求していけるように、都としても今後、取り組んでまいりたい

岡井　オブザーバー（内閣官房デジタル行財政改革会議事務局　参事官）

- TYPES 参加自治体の取組推進に感謝申し上げる
- 運用することで、課題や要望が明らかになってきている。保護者・園それぞれの負担軽減が重要な視点。保護者を優先すると園や自治体の負担が増えるケースもあり、バランスの取れた解決策が必要
- 全国展開を見据え、工夫を重ねるタイミングが今後もある。その都度、保護者・園・自治体の負担軽減に取り組んでいきたい。また、そのことがシステムの更なる普及にもつながる。機能面では、個別の改修や関係者のコンセンサスが必要な課題もあると思うが、整理しつつ少しずつでも解決を積み重ねていくことが重要
- 引き続き、協力と意見交換をお願いしたい

竹内　こども DX 推進担当課長：

- 皆様から貴重なご意見をいただき、感謝申し上げる

■次第５　効果測定の実施について

竹内　こども DX 推進担当課長：

- 資料（スライド 24～28）に沿って説明

■次第６　新規機能の開発について

木村　課長代理（事務局）：

- 資料（スライド 29～30）に沿って説明

多宇　エキスパート（事務局）：

- 資料（スライド 31～37）に沿って説明

以上